

令和 4 年 5 月 28 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K15174

研究課題名（和文）都市公園での利用者実態にみるPPP型再生手法の効果とサードプレイス機能

研究課題名（英文）Study on the function of third place and effect of PPP-oriented park revitalization method based on the analysis of actual situation of park user in urban park

研究代表者

蕭 耕偉郎（SHO, Kojiro）

九州大学・人間環境学研究院・准教授

研究者番号：30796173

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、大阪市の主要な都市公園である天王寺公園エントランスエリアへの管理許可制度（IMP）の導入に伴って整備された「てんしば」におけるパークマネジメント（PM）の成果について評価を試みた。IMPの導入によるPMとしての成果やその財務的效果は、アンケートによる公園利用者の特性把握や公園利用者への観察調査に加え、事業実績データ分析に基づいて評価が行われた。その結果、「てんしば」と類似した規模・歴史経緯を有するもIMPを導入していない都市公園である住吉公園との比較から、「てんしば」の主な利用者は若年女性であり、芝生広場での平均滞在時間は住吉公園よりも2分以上長く、より効果的な回遊性向上がみられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、近年の少子高齢化、地方財政の困難に直面する中、新たな都市公園の在り方を模索するために、民間活力を取り入れた新たな設置管理許可制度に基づいて天王寺公園の中央に新たに整備された芝生広場である天王寺公園エントランスエリア「てんしば」に着目し、その評価を主軸に置きつつ、既存の指定管理制度のもとで運営されている都市公園である住吉公園との比較を行うことにより、民間活力に基づいた都市公園再生手法による都市公園への回遊性向上や、財政的な持続性に対する効果を確認することができた。以上の結果から、新たな公園再生手法としての設置管理許可制度の有効性が確認されたといえる。

研究成果の概要（英文）：The park management (PM) that evolved from the park-renewal project based on Installation-Management Permission (IMP) in Tennoji Park, a major urban park in Osaka City, Japan is evaluated herein. The PM results and financial effects of the introduction of IMP in "TEN-SHIBA", entrance area of Tennoji Park are evaluated based on both the characteristics of park users obtained by a questionnaire as well as an observation survey of the park users, and a data analysis of the track record. Based on a comparison with Sumiyoshi Park, an urban park similar to "TEN-SHIBA" but without the introduction of IMP, it was found that young females were the predominant users of "TEN-SHIBA", and the average staying time on the lawn plaza was 2 minutes longer than that in Sumiyoshi park. These results suggest that IMP might be an effective method for the revitalization of existing urban park.

研究分野：都市計画

キーワード：都市公園 回遊性向上 設置管理許可制度 回遊行動 芝生広場

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本の都市公園では近年、「公民連携型再生手法」(以下、PPP型再生手法)として「Park-PFI」、「設置管理許可制度」など、既存の行政直営や指定管理者制度などの不効率やそれに伴う魅力低下への対策として導入されている。特に、「Park-PFI」や「設置管理許可制度」では、公園内に飲食店や売店などの便利施設(特定公園施設)の設置に伴って生ずる収益を活用して、周辺の園路や広場など一般公園利用者が利用する公園施設の整備・運営を一体的に行う主体を選定することが可能である。「指定管理者制度」は、施設の新たな整備を行わずに既存都市公園の運営向上に向けてノウハウのある事業者を選定する手法である。様々な都市公園の管理運営に関わる手法により、公園の利用実態も大きく変わることと予想される。

2. 研究の目的

都市公園は多様な機能を有するが、求められる機能の一つには、「サードプレイス」(third place)理論が深く関係する。サードプレイスとは現代都市社会の中で、住宅(ファーストプレイス)と職場や学校(セカンドプレイス)を往来する生活では得られない他者と共有できる居心地のよい第三の場所を指す。例えば、大阪の住之江公園や久宝寺緑地などの都市公園では、地域住民によって親しみを持たれおり、日常的に長時間滞在して独自に快適な過ごし方と居場所を持つ公園利用者が多く見られる。

都市公園ではPPP型再生手法の導入により管理運営効率の向上に伴って、サードプレイス機能を高めることが可能と考えられるが、その実態を把握するためには日常的な公園利用者の行動への観察や、アンケート調査に基づく心理評価などが望ましい手法と思われる。本研究では、こうした実態を把握して、PPP型再生手法の導入によりサードプレイス機能がどう変化するかを精確に評価することから、今後の都市公園の在り方を検討する手がかりを得ることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究によるPPP型再生手法の実態を踏まえた効果把握の目的に向けて、主に下記の方法による調査を実施する。

1. 現地調査とヒアリング調査に基づく実態把握:各事例への現地調査及び運営団体や関連行政へのヒアリング調査から実態を把握し、関連データも入手する。
2. 実態に基づく再生効果の把握:賑い効果(年間・時間帯別来園者数、イベント開催数など)及び経済効果(運営収入、整備コストなど)に着目する。
3. 異なるPPP型再生手法による都市公園での利用者実態把握の目的に向けて:
 - (1) 調査対象空間:各事例の中心部に位置する「広場」または「芝生広場」とする。
 - (2) 追跡観察調査:調査対象空間における季節(春夏秋冬)・時間帯(朝昼夕)ごとの利用者回遊行動(滞在场所、行為、移動ルートなど)を調査する。

本研究では、主に新たなPPP型再生手法として「設置管理許可制度」が導入されている天王寺公園エントランスエリア「てんしば」の芝生広場と、既存の指定管理者制度によって運営管理されている住吉公園の入り口広場を対象に調査を行い、比較分析を試みた。

4. 研究成果

本研究では、まず「設置管理許可制度を基軸とした事業協定に基づくパークマネジメント(PM)」の先進事例である「てんしば」に着目し、その整備に至るプロセスを整理した上で、ハード事業では「てんしば」における便利施設、運動関連施設、観光関連施設に関する内容と特徴など、ソフト事業ではPMに関わる清掃警備、芝生・樹木管理、地域との連携体制などの現状を明らかにして、以上の両面から「てんしば」におけるPMとしての成果評価を試みた。

ハード事業について、「てんしば」の公園リニューアル事業の目玉として、海外公園の事例などを参考に、「芝生広場」を中央に配置し、日常的な憩いの場と同時に非日常的なイベント空間としても賑わう公園をイメージにして整備を進めている。「てんしば」では、施設の内容は非常に多様であり、芝生広場や公園との親和性が高いカフェ、コンビニ、多彩な飲食店に加え、「公園」の枠組みの中で重要である運動関連施設としてペット連れ利用者、子連れ利用者、球技利用者などをターゲットとした施設もある。また、天王寺周辺の観光機能の充実に向けて、ゲストハウス、観光バス乗降場や国際観光案内所などの観光関連施設も併設されている。各店舗・施設の整備では、低層かつ木造の建物で、屋根の色も周辺からの眺めに配慮し、芝生広場と植生と調和した色で統一している。夜でも目玉の芝生広場、レストランなど施設を楽しめるようにライトアップもされている。

PMの中核であるハード事業による諸施設整備に伴うソフト事業の「管理運営」の実態について、まず清掃業務とその体制、警備業務とその体制を明らかにした。次に、ソフト事業の中核とも言える芝生・樹木の管理について、まず、2015年度から2016年にかけては業務内容の充実化が実現され、更に2016年度から2017年度にかけて業務の実施実績が大幅に向上・改善していることも明らかとなり、それは、「てんしば」での芝生広場などの利用者の増加に伴い、必

要の作業も増えていたことが原因として考えられる。

また、「てんしば」の管理運営は地域との連携体制が築かれており、天王寺公園の魅力向上の目的のもと、ソフト事業の一環として様々なイベントが地域との連携体制によって開催されており、年間 10 万人以上の実績を誇ると同時に、2015 年度当初は大規模・短期間のイベントが中心だったが、2016 年以降はイベント回数の増加に伴う日数の長期化傾向が見られ、イベントの開催による継続的な賑わいを創出する狙いが見られた。以上に考察した「てんしば」の管理運営と連携体制は、図 1 の通りである。

最後に、「てんしば」における PM の成果を入園者から見た時に、過去 3 年間で平均して年間 10 万を越す安定した入園者があり、更に、「てんしば」の店舗入店者数は 2015 年後期が 24% だったのに対し、2017 年後期にはほぼ倍の 47% にまで大きく伸ばしている。また、「てんしば」利用者のアンケート調査の分析結果、リピーターが非常に多いことと、芝生目的の利用者が過半数を占める現状が明らかとなり、「てんしば」における芝生広場の重要性がうかがえた。一方で、利用施設の割合で芝生広場の平均が 83% で、利便施設が 46% という現状から、「てんしば」の利用者は主に芝生広場と利便施設に集中し、運動関連施設、観光関連施設など利用が少ない施設の認知度向上や利用者増加に向けて対応することが求められる。また、「てんしば」利用者による満足度評価に着目すると、「良い」や「とても良い」と評価した利用者が 9 割程度を占めることから、現状では多くの利用者が「てんしば」に満足していることが明らかとなった。

また、追跡観察調査などの結果から、「てんしば」と類似した規模・歴史経緯を有するも PPP 型再生手法を導入していない都市公園である住吉公園との比較から、「てんしば」の主な利用者は若い女性であり、若年層を中心に多様な利用者層がみられ、その一方で住吉公園では高齢者層の男性を中心に比較的単一属性の利用者が多いことが分かった。また、「てんしば」における芝生広場での平均滞在時間は住吉公園よりも 2 分以上長く、さらにグループでの利用も多く、より効果的な回遊性向上がみられ、さらにサードプレイス機能としても発揮しているものと考えられる。参考として、表 1 に「てんしば」と住吉公園の施設属性と利用者実態の比較をまとめた成果を示す。

以上の研究成果は、日本建築学会技術報告集(論文タイトル:設置管理許可制度に基づく事業協定によるパークマネジメントの展開:天王寺公園エントランスエリア「てんしば」を事例に)や、造園学分野の著名な国際雑誌である LANDSCAPE AND ECOLOGICAL ENGINEERING (論文タイトル: Evaluation of park management based on "Installation-Management Permission" in TEN-SHIBA, Tennoji Park, Osaka City: focus on park users and financial effects) に掲載されており、幅広く情報発信を図っている。

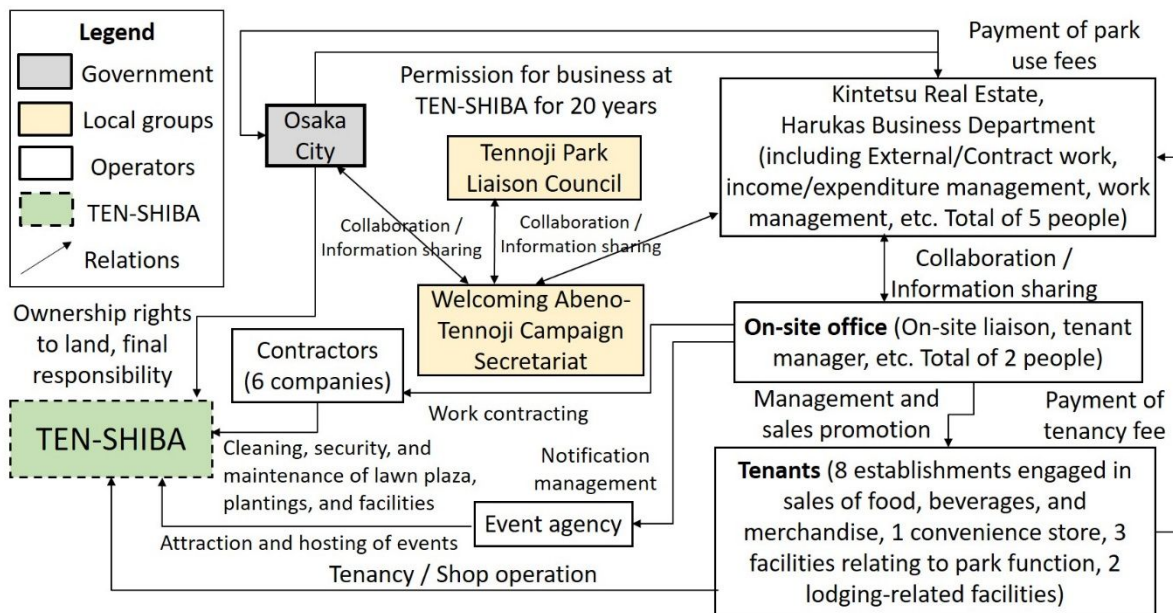


図 1: 「てんしば」の管理運営および地域との連携体制

表 1: 「てんしば」と住吉公園の施設属性と利用者実態の比較

		天王寺公園エントランスエリア「てんしば」 (TEN-SHIBA)	住吉公園 (Sumiyoshi Park)
Basic attributes	Operation	Public park with IMP	Public-built privately operated
	Plaza area	25,000 m ²	22,000 m ²
	Total area of park	~100,000 m ² (Osaka City Museum and Osaka Tennoji Zoo excluded)	~80,000 m ²
	Location	Tennoji Ward, 6.8 km from Osaka Station, the gateway of Osaka City	Sumiyoshi Ward, 10 km from Osaka Station
	Accessibility	35 m to the nearest railway station	36 m to the nearest railway station
	Surrounding environment	Mainly residential areas, and close to the historical resources Keitaku Garden and Chausuyama Grave	Mainly residential areas, and close to the historical resource Sumiyoshi Grand Shrine
Features of park users (average)	No. of users	2	1
	Age	20s: 30.8%; 10s: 19%; 30s: 15.9%; 40s:12.3%	60s: 17.9%; 20s: 17.2%; 30s: 15%; 40s: 13.5%
	Gender	M: 45.5%, F: 54.5%	M: 51.5%, F: 48.5%
	Time staying in plaza	6 min	4 min

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 HSIAO Hongwei	4. 巻 未定
2. 論文標題 Spatial distribution of urban gardens on vacant land and rooftops: A case study of 'The Garden City Initiative' in Taipei City, Taiwan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Urban Geography	6. 最初と最後の頁 1~26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/02723638.2021.1901036	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 HSIAO Hongwei	4. 巻 17
2. 論文標題 Evaluation of park management based on "Installation-Management Permission" in TEN-SHIBA, Tennoji Park, Osaka City: focus on park users and financial effects	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Landscape and Ecological Engineering	6. 最初と最後の頁 119~133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11355-020-00441-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 HSIAO Hongwei	4. 巻 17
2. 論文標題 Characteristics of urban gardens and their accessibility to locals and non-locals in Taipei City, Taiwan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Landscape and Ecological Engineering	6. 最初と最後の頁 41~53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11355-020-00430-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 HSIAO Hongwei, TANAKA Toshinori	4. 巻 13
2. 論文標題 Study on the Characteristics of National Parks Administration and Evaluation on the Operation Situation of National Parks in Taiwan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Landscape Research Japan Online	6. 最初と最後の頁 24~34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5632/jilaonline.13.24	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 HSIAO Hongwei	4. 巻 55
2. 論文標題 遊休空間を活用した地域住民提案型オープンスペースの特徴に関する研究：台北市における「オープングリーン」の取り組みを事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 705～712
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11361/journalcpj.55.705	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 HSIAO Hongwei	4. 巻 26(62)
2. 論文標題 設置管理許可制度に基づく事業協定によるパークマネジメントの展開：天王寺公園エントランスエリア「てんしば」を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会技術報告集	6. 最初と最後の頁 353-358
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aijt.26.353	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 HSIAO Hongwei	4. 巻 26(63)
2. 論文標題 明石市における「施設包括管理」の導入プロセスとその運用実態に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会技術報告集	6. 最初と最後の頁 735-740
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 蕭 耕偉郎、高木 悠里、橋戸 真治郎、西上 魁人、近野 成宏、堤 洋樹	4. 巻 7
2. 論文標題 公共施設の再編に向けた複数自治体を横断する「共同利用」の実態に基づく評価手法の提案 奈良県中和・西和地域3市4町の文化施設・運動施設の事例から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 実践政策学	6. 最初と最後の頁 191-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------